

2018 年度春学期東京学芸大学「日本理解」「多文化共修科目」時間割・授業概要

2018/3/22

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
I 8:50- 10:20	多文化共修科目 C 世界の言語と文化 (伊能裕晃) [N313]	日本理解 G 自然 (澤田康徳) [N207]			
II 10: 30- 12:00		日本理解 C 人文 (有澤知乃) [N407]			
III 12: 50- 14:20					
IV 14: 30- 16:00				日本理解 A 教育 (李 紅実) [C203]	
V 16: 10- 17:40				多文化共修科目 A 異文化理解とコミュ ニケーション (岡智之) [N313]	日本理解 E 人文 (高崎恵) [N207]

- \* 「多文化共修科目」は、学部の正規生（主に日本人学生）が履修できるCA科目として同時開講されており、留学生と日本人学生が共に議論しながら、世界の文化や社会の多様性について、学びを深めることを目的としています。
- \* 「日本理解」は、留学生のみを対象とした科目で、日本の文化や社会について、留学生同士で議論したり、実技や見学などを行ったりしながら、多角的に学ぶことを目的としています。
- \* 原則として、日本語プレースメントテストの結果がレベル1と2の学生を対象としますが、レベル3～5の学生についても授業によっては受講が可能です。第一回目の授業で担当教員に確認してください。

授業科目名	日本理解 A：教育
担当教員	李 紅実（リ コウジツ）
ねらいと目標	この授業は、留学生を対象とする科目ですが、日本人ボランティア学生も加わる予定のため、様々な文化的背景を持つ学生を対象とし、日本語のレベルや専門に関係なく誰でも受講可能な科目です。授業は、比較教育の視点から、日本の教育に関する多様なテーマを取り上げ、講師のトピックス提供から、受講生のグループ討論へ発展させたり、受講生のプレゼンテーションを通して、①日本の教育制度および教育事情に関する基礎的な理解 ②その背景にある日本の文化や社会の理解③日本語での発表のスキルと日本語力のアップを図ることを、ねらいとしています。
内容	この授業では、まず、講師の準備する資料を通して、日本の基本的な教育制度を理解し、映像を見ながら日本の学校の様子に触れます。次に、講師自ら経験した日本の教育現場、その背景にある日本の文化の理解に関して、いくつかのトピックを順に取り上げ（例えば、学校の行事、給食、部活、習いごと、PTA、日本の教師など）受講生に討論のテーマを提供します。その後、少人数グループに分かれ、出身国（出身地域）の教育事情と比較しながら、その回のテーマについて、話し合います。グループ討論には、留学生だけでなく、日本人のボランティア学生にも参加してもらいます。話し合い後、各グループで取り上げた内容について簡潔に発表し合います。日本の教育事情やその背景のある文化を理解すると共に、自らの出身地・出身国に対する理解も深められるでしょう。学期末には、受講生が興味を持つテーマを選び、日本との比較の視点で研究します。有志には研究発表をしてもらいます。学期末研究発表の方法は、まず、講師が「日本における外国人児童生徒の受け入れ政策と実態」のテーマでデモンストレーションします。発表者には、学期末レポートが免除されます。
テキスト	特に定めません。
参考文献	授業のなかで紹介します。
成績評価法	・出席 40% ・授業への取り組み 30% ・学期末レポート（もしくは、学期末研究発表）30%
授業スケジュール	1. オリエンテーション・自己紹介 2. 日本の教育制度、日本の学校の紹介（資料と動画） 3-10 教育に関する個別テーマを取り上げて紹介、意見交換、発表 11. 個人発表デモ：日本における外国人児童生徒の受け入れ政策と実態 12-15 個人発表：自由テーマ
授業時間外における学習方法	
授業のキーワード	比較教育・日本と諸外国の教育事情の比較
受講補足（履修制限など）	
学生へのメッセージ	学部 国際教育選修のボランティア学生（1年生）も参加します。

授業科目名	日本理解 C : 人文
担当教員	有澤知乃 (ありさわしの)
ねらいと目標	日本の伝統芸能 (でんとうげいのう) の歴史や社会的背景を把握 (はあく) すると共に、音楽や演劇 (えんげき) の特徴などを理解します。
内容	歌舞伎 (かぶき)、能 (のう)、人形浄瑠璃 (にんぎょうじょうるり) などの舞台芸能や、箏 (こと) ・三味線 (しゃみせん) ・尺八 (しゃくはち) などの音楽を、映像や実際の演奏を通して学びます。まず、それぞれの芸能ジャンルの歴史と発展を概説します。どのような時代に誕生し、どのような身分の人たちが何の目的で行なったのかという基礎的な背景に加えて、近現代の変化や新しい試みについても紹介します。その後、映像を見たり、実際に楽器にさわってみたりしながら、具体的な特徴を考えていきます。他国の芸能や音楽とも比較することで、日本の芸能文化の特徴を多方面から発見していきましょう。
テキスト	特に定めません。
参考文献	文化デジタルライブラリー「舞台芸術教材で学ぶ」 <a href="http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/modules/learn/">http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/modules/learn/</a>
成績評価法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間レポート 30% (1000 字)</li> <li>・ 発表 10% (20 分程度×1 回)</li> <li>・ 期末レポート 40% (2000 字)</li> <li>・ 平常点 20% (毎回の授業でのディスカッションへの参加状況)</li> </ul>
授業スケジュール	<p>予定 (第一回の授業で確定します。)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 能 (のう)</li> <li>3. 歌舞伎 (かぶき)</li> <li>4. 人形浄瑠璃 (にんぎょうじょうるり)</li> <li>5. 雅楽 (ががく)</li> <li>6. 箏 (こと)</li> <li>7. 三味線 (しゃみせん)</li> <li>8. 尺八 (しゃくはち)</li> <li>9. 琵琶 (びわ)</li> <li>10. 民謡 (みんよう)</li> <li>11. 沖縄の音楽</li> <li>12. 発表</li> <li>13. 発表</li> <li>14. 発表</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
授業時間外における学習方法	インターネットや図書館の資料などを活用して、様々な伝統芸能の映像を見たり音楽を聴いたりする。
授業のキーワード	伝統芸能
受講補足 (履修制限など)	
学生へのメッセージ	日本にいる間に、できるだけ色々な公演やコンサートに足を運んでみてください。

授業科目名	日本理解E：人文
担当教員	高崎恵（たかさき めぐみ）
ねらいと目標	(1) 日本の文化状況を理解するための基礎的な知識や枠組を学習します。 (2) 宗教を例にとり、「日本的」とされるものの形成を検討します。
内容	<p>一国の文化の「らしさ」や「伝統」は、時代に適応して変化しなければ生き残っていきませんが、それと同時に、過去からの連続性を保っています。この授業では、時代とともに変遷する「日本らしさ」や「日本の伝統」がどのように「古来から」「綿々と続く」日本イメージを維持しているかを、具体例とともに考えます。</p> <p>前半では、「文化」を語るための基本的な概念や枠組を概説し、日本の諸現象を例にとって、その分析例をご紹介します。後半では、現代日本の宗教のあり方がどのように形成されてきたかについて学びます。</p>
テキスト	特に定めません。
参考文献	授業のなかで紹介します。
成績評価法	<p>平常点（40%）と個別研究（60%）で成績評価を行ないます。</p> <p>平常点は授業参加によって評価します。</p> <p>個別研究は、日本で生活するなかで感じる「日本らしさ」や「日本の伝統」から具体例を選び、分析をしていただきます。授業中に口頭発表（20分程度）したうえで、その内容をレポートにまとめていただきます。</p>
授業スケジュール	<p>受講生の人数や関心や理解度に応じて適宜変更の可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 文化とは何か</li> <li>3. 創られた伝統</li> <li>4. オリエンタリズム</li> <li>5. 伝統の再埋め込み</li> <li>6. ナショナリズム</li> <li>7. 前半のまとめ</li> <li>8. 日本の宗教事情</li> <li>9. 日本人はなぜ無宗教なのか</li> <li>10. 日本社会と仏教</li> <li>11. 日本社会とキリスト教</li> <li>12-14. 個人発表</li> <li>15. まとめと総合討論</li> </ol>
授業時間外における学習方法	「日本って」「日本人って」と考える際、授業でご紹介した分析枠組などを、応用してみてください。
授業のキーワード	宗教
受講補足 （履修制限など）	特にありません。
学生へのメッセージ	日本で感じたカルチャーショックが、日本文化理解のよい手がかりです。日常感じる違和感を見つめなおしてみてください。

授業科目名	日本理解G：自然
担当教員	澤田 康徳（さわだ やすのり）
ねらいと目標	日本の自然環境に関する地域差を理解し，世界と日本の自然と文化や社会のつながりの違いを説明できるようにする．
内容	日本は南北（なんぼく）に大きく広がり，日本海側と太平洋側でも環境は違います．環境に関する考え方や捉え方（とらえかた）は，場所や発達段階（はったつだんかい）によっても違います．日本の自然環境と人々の環境の捉え方を理解します．
テキスト	特になし．
参考文献	授業で紹介します．
成績評価法	授業の復習と感想 60%（毎行います） 発表 40%（20分程度×1回）
授業スケジュール	講義 日本のひろがり 日本の自然環境 日本の社会・文化環境 世界の中の日本  ：自然と人間との関係を探求（たんきゅう）するうえで，自然環境の理解は重要です．本講義では，自然は人間生活と密接に関わっているという認識に立って，環境を捉え（とらえ）ます．近年は，気候変動（きこうへんどう）と人間活動との関係に着目されることが多いです．その際に必要な，広域（こういき），地球規模（ちきゅうきぼ）で日本を捉える視点と，自分を取りまく身近な範囲から徐々に空間を広げて日本を捉える視点を養います．  発表 「私の出身国と捉える日本の自然の違い」
授業時間外における学習方法	身の回りにある自然に関心を持ち，授業で学習した内容と照らし合わせたりする．
授業のキーワード	自然，気候，認識，環境，日本
受講補足（履修制限など）	
学生へのメッセージ	

授業科目名	多文化共修科目 A： 異文化理解とコミュニケーション
担当教員	岡 智之 (おか ともゆき)
ねらいと目標	多文化共修科目は、日本人学生と留学生をはじめとする様々な文化的背景を持つ学生が、授業という場でお互いに学び交流しながら、新しい気づきを生み出す場です。多文化共修科目 A「異文化理解とコミュニケーション」では、異文化に関する理解を深めるとともに、多様な文化を持つ学生の議論や協働学習を通して、多種多様な人々と対等にコミュニケーションを取ることができる能力を高めることを目的とします。
内容	異文化コミュニケーションや多文化社会に関する問題を、留学生など多様な学生との議論・交流を通して学ぶ。グループで多文化社会の問題解決を目指すプロジェクトを企画し、発表し、報告書としてまとめる。プロジェクト例：「多文化共生キャンパスへの貢献」「地域の多文化共生のためのプロジェクト」「多様性理解のためのプロジェクト」など。課外活動として、ミニ・ヒューマンライブラリー、外国人学校訪問、国際交流合宿などを予定しています。
テキスト	特に定めません。
参考文献	原沢伊都夫『異文化理解入門』研究社、2011 『まんが クラスメイトは外国人—多文化共生 20 の物語—』明石書店
成績評価法	平常点 30% (授業の最後にコメント用紙提出)、課外活動 10% (感想文を含む)、最終発表 30%、最終レポート 30% (最終レポートは 8 月 2 日 (木) 締め切り。A4 用紙 3 枚程度、3000 字以上は書くこと。)
授業スケジュール	1. オリエンテーション、2. プロジェクト構想とグループ作り、3~10. 多文化社会の諸問題の学び (在日外国人、ろう文化と手話、セクシュアルマイノリティ)、ミニ・ヒューマンライブラリー、11. プロジェクト準備と中間報告、12, 13, 14. 最終発表。15. まとめ。
授業時間外における学習方法	学内や地域の多文化共生に貢献するためのプロジェクトなので積極的に課外活動に参加してください。授業外の調査やグループワークもあります。
授業のキーワード	異文化理解、多文化共生、プロジェクトワーク、ヒューマンライブラリー
受講補足 (履修制限など)	日本語だけで授業をやるため、原則として、プレースメントテストでレベル 1, 2 の学生に限定します。
学生へのメッセージ	日本人学生と積極的に交流したい学生を歓迎します。

授業科目名	多文化共修科目 C：世界の言語と文化
担当教員	伊能裕晃 (いのう ひろあき)
ねらいと目標	様々な言語的背景を持つ学生（日本人学生、外国人留学生）が交流しながら世界の言語やコミュニケーションのあり方について学びます。互いの議論や協働学習を通して、異文化コミュニケーション、外国語学習、外国語教育、等の基礎となる、言語と文化を反省的に捉える力を養うことをこの授業の目標としたいと思います。
内容	自らが使用している／学習している日本語を一つの外国語と見なし、様々な言語と比較しながら、その特徴と世界の言語との違いを考えていきます。音声、表記、語彙、文法、コミュニケーション等について、毎回、グループに分かれて、具体的に言語を分析、考察する課題を行い、討論の中から気づいたことを発表し、それをまとめたミニ・レポートを作成します。学期の途中で、自分の学習したことのない言語について、日本語との違いを分析して、まとめるレポートを出す課題があります。
テキスト	特になし。
参考文献	必要に応じて、教室で紹介します。
成績評価法	出席、授業への参加度 40%、授業中の課題 30%、レポート 30%
授業スケジュール	全体的なオリエンテーションの後、日本語と世界の言語の音声、表記、語彙、文法、コミュニケーション等について、毎回、興味深いトピックを一つ取り上げ、授業を行います。 詳細な予定は、学期開始後、履修者の言語的な背景などを踏まえて決めたいと思います。 途中、グループで調べたことを発表する機会を2～3回設ける予定です。
授業時間外における学習方法	自分が使用している／学習している言語を使って、普段自分がどのようにコミュニケーションをしているかを振り返る。各国語の初級向けの教材を読んでみる。
授業のキーワード	言語、文化
受講補足（履修制限など）	日本語だけで授業を行うため、外国人留学生は、原則として、プレースメントテストでレベル1，2の学生に限定する。
学生へのメッセージ	この授業自体が異文化コミュニケーションとなるよう、授業への積極的な参加を求めます。